

1 単元名 鏡（精選言語文化 第一学習社）

2 生徒と単元

(1) 生徒観

男子2名、女子1名の学級である。準ずる教育課程の普通科Aコースに在籍し、3名とも卒業後は大学進学を希望している。3名のうち、2名が高等部から本校に入学してきた生徒である。3名とも聴覚を活用し、音声でのやり取りが中心であるが、聞こえにくい教師や友達とやり取りをするとき、授業で発言する際には手話を使うことが増えてきた。お互いに十分に聞き取れていないことがある。学年相応の語彙力があり、授業では積極的に発言する姿が見られる。一方、新出語や表現技法の名称などは身に付くまでに時間が掛かる。また、教師からの問い掛けに単語で答えることが多いため、文末まで話すよう求めたり、具体例や理由を尋ねたりすると気を付けて文末まで話そうとする姿も見られる。4月に、「羅生門」の単元を通して、下人の心情と行動の変化や、クライマックスの場面がもつ役割りを学習した。現代とは違う時代背景の理解を助けるために、情景を絵に描いたり、動作化したりすることで、学習を深めることができた。また、7月に「詩 自分の感受性くらい」で、擬態語や擬音語、体言止めなどの表現技法や構成の工夫についての学習をした。登場人物の心情や行動から本教材における「恐怖体験とは何か」を本文中の表現技法や構成に着目して、読み取れるようこれらの学習を活かしたい。

氏名	平均聴力（右・左）	装用閾値（0.5・1・2kHz）
	個別の実態	
A	() dB・() dB	() dB・() dB・() dB
	地域の中学校から入学した。右耳に人工内耳、左耳に補聴器を装用している。主に音声でやり取りをしている。授業中は、本人の希望でロジャー送信機を首掛けモードで使用している。少しずつ手話を覚え、聞こえにくい友達と話す時や授業で発言する時に音声と合わせて手話を使うことが増えてきた。これまでの学習経験から、ことわざや故事成語を含む様々な語彙や表現に触れている。思考や筆記に時間がかかるが、考える時間が十分にあれば、自分の考えをまとめて書いたり、発言したりすることができる。また、物語や詩の創作、文章から読み取った内容のイラスト化などに積極的に取り組んでいる。 「羅生門」の下人のその後を文章で書くという活動では文体や表現を工夫し、盗人になってしまった下人のその後を自分なりに想像し、丁寧に書くことができた。物語の大筋を捉えることはできるが本文から明確な根拠を選び抜くことには、課題が見られる。	
B	() dB・() dB	() dB・() dB・() dB
	両耳に人工内耳を装用しており、主に音声と日本語対应手話でやり取りをしている。読書習慣があり、小説や物語を通して様々な語句や表現に触れている。また、自分で必要なことを判断しメモを取ったり、分からない語句については調べたりするなど積極的に取り組む様子が見られる。話す、書いて考えを述べるときは簡単な言葉でまとめがちだが、個別に尋ねると理由や根拠を答えたり、根拠を元に自分の考えをまとめたりすることができる。 「羅生門」の学習では、「下人のにきびの表現は何のためだろう？」「下人の気持ちは、なぜ急に変わったのだろうか」など自分なりの疑問をもって、取り組んだ。物語の大筋を捉え、発問に対する答えを本文中から見つけ出すことができるが、それを踏まえて説明したり、文章を書いたりすることに課題が見られる。	
C	() dB・() dB	() dB・() dB・() dB
	地域の中学校から入学した。右耳に人工内耳、左耳に補聴器を装用している。左耳の補聴器の方が聞こえやすく、よく活用している。授業中は、友達の声を聞き取りやすくするために、ロジャー送信機をグループモードで使用している。主に音声でやり取りをしているが、少しずつ手話を覚え、聞こえにくい友達や教師と話す時に使うこともある。人と言葉でやり取りをすることが好きで、様々な人と積極的に会話したり、テーマ日記で教師とやりとりをしたりすることで色々な情報や知識を得ている。周りの友達の意見や考えを聞き入れ、自分の考えを広げることができる。文章を書くときに、箇条書きになってしまったり、敬体と常体が混同してしまったりすることが多い。考えをまとめて話したり、書いたりする活動では、要点を押さえて自分の考えをうまくまとめることができる。 「羅生門」の学習では、老婆の論理を聞き、下人の行動と心理が変化していく様子を的確に読み取ることができた。理解していることは多いが、説明や発表の場面になると、主語や述語が抜けてしまい情報を正しく伝えることに課題が見られる。	

(2) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領国語の国語総合「3 内容」の「B 読むこと(1)イ作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。ウ文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。オ作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。」を踏まえて、設定した。教材は、村上春樹の短編小説「鏡」を使用する。主人公である僕が語り手として登場する一人称小説である。現在の僕が過去を回想する形式で物語が展開される。現在の僕にとって、過去の出来事がどんな影響を及ぼしているのか、文章の構成や表現の仕方に着目して考えさせたい。

また、本教材では主人公が鏡を通して自分を客観的に見つめ、自分の本質や理想とする姿と向き合うが、最終的には部屋に鏡を置くことをやめ、自分と向き合うこともやめてしまう様子が描かれている。高校生という進路や日々の生活に悩みが増える時期に本教材に触れ、自分の生活態度や現在の課題への向き合い方、また主人公を反面教師として自分の弱さや理想に向き合い続ける大切さを考えるきっかけになるのではないかと考えた。

3人とも大学進学を目指している。そのため、国語科だけでなく全ての教科において問題文の意図する内容を正しく読み取り、問題に適切な答え方で解答していく力が必要だと考える。現状として、定期考査や模試などで文章の細部まで読まずに、解答の仕方や解答欄を間違えるといったケアレスミスをすることが多い。また、文学的な文章においては、おおまかな内容を読み取ることはできるが、本文中の記述を根拠に説明することに課題がある。「～だと思います。なぜなら、～だからです。」の話形を中心に、理由や根拠まで説明できる力を養っていききたい。その一方で、3人という少人数の集団であるが、一人一人が自分なりの考えをもち、それぞれの考えを尊重し合える集団である。本教材を通して、本文中の記述に着目して正しい情報を読み取り、説明する力、話し合い活動により、他者の考えを聞いて自分の考えをより深めていく力を養っていききたいと考えた。

(3) 指導観

本単元で国語科として目指す主体的な姿として、次の二点を考える。

1点目は、文章を漫然と読むのではなく、その内容に理由や根拠をもち、思考する姿である。生徒の読書の実態は、小説はほとんど読まない者から一ヶ月に何冊も読む者まで様々である。その3人が本教材を読んで、感じたことや考えたことを話し合うことでそれぞれの読みを深められると考えた。3人とも積極的に発言することができているが、答えとなる言葉を単語で話したり、理由を付けずに話したりすることが多い。文章の大筋を捉えられるが、「なぜそう言ったのか」「どうして、この場面でこうしたのか」など登場人物の心理や行動の理由を説明することがまだ身に付いていない。場面の状況や、主人公の心理の変化を丁寧に読み取り、情報を整理するなど、根拠のある自分の言葉で説明できるようになってほしい。

2点目は、他者の発言や考えから、自分の考えを再考し、深めようとする姿である。授業は、3人という少人数ではあるが、集団で学習をしている。集団の良さを活かし、話し合い活動を通して他者の考えを知り、自分の考えを再考する学習を通して、積極的に自分の考えを述べたり、他者の意見に耳を傾けたりする姿勢を育てたい。

指導に当たっては、次のことに留意して行う。()は、言語活動の充実に関する留意点、網掛けは聴覚障害に対する配慮点)

使える常用漢字や知っている語彙を増やすために

- 様々な語句を知り、語彙として身につけることができるように、語句を使う場面を尋ねたり、類義語や対義語をその都度確認したりする。
- 言葉のイメージを持ちやすくしたり、情報を正確に伝えたりするために手話を意識的に取り入れる。
- 鏡についての言葉や歌、物語など様々なイメージをもって教材に向かえるように、ロイロノートのシンキングツールを活用してイメージを広げたり、職員に鏡のイメージアンケートをとって提示したりする。

構成や描写から内容を的確に読み取るために

- 文章に疑問を探したり、内容を予想したりする習慣が身に付くように、本単元でなく他の単元でも同じような活動を繰り返し設定する。
- 生徒が本教材の時代背景を理解して、内容を読み取れるように、写真や映像といった視覚的なツールを用いる。
- 情報を整理して思考できるように、教室備え付けのホワイトボードには話し合いの内容やキーワードなどの板書、補助ホワイトボードには教科書本文を提示する。
- 教材の主題に迫れるように、現実世界の自分と鏡の中の自分という視点を設ける。

根拠や理由を付けて説明するために

- 生徒が疑問点の解決に向けて本文の記述を根拠に考察できるように、根拠はどこかを尋ねたり、拡大した教科書掲示の根拠となる記述に線を引いたりする。
- 思いつきの発言にならないように、主発問に関わる発言は、文章を書き自分の考えを整理してから発表させる。
- 根拠や理由のある文章を書けるように、「なぜなら」「このことから」などの接続語の使用を確認する。
- 友達の意見を基に再考できるように、友達の発表を聞いた後に、意見や質問を求める。
- 自分と似ている考えや違う考えに触れながら再考ができるよう、生徒同士の考えを共有し相違点や気づきを問

う。

- ・発表や質問の時に、根拠や理由のある考えを説明できるように、個人で思考する時間を十分にとる。
- ・友達の声が聞こえやすくなるように、話し合い活動の時には、生徒の近くの机にロジャーを置く。
- ・友達の話に注目して聴けるように、全員の視線が集中してから話し始めることや話しを聞くときは手を止めて、相手の顔を見ることをその都度、確認する。

3 単元の目標と指導計画

(1) 単元の目標 **知**:「知識及び技能」 **思**:「思考力、判断力、表現力等」 **学**:「学びに向かう力、人間性等」

- ・読み書きできる常用漢字や知っている語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 **知**
- ・作品の背景を理解し、内容や構成、展開などに着目して、内容を的確に捉える方法を学ぶ。 **思**
- ・教材に対する自分なりの疑問や考えをもち、根拠を明確にして説明したり、話し合い活動で他者の考えを聞き、自分の考えを再考しようとしたりする。 **学**

(2) 指導計画と評価規準（8時間扱い） **知**:「知識・技能」 **思**:「思考力・判断力・表現力」 **主**:「主体的に学習に取り組む態度」

次	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準 観点 (方法)
導入	1	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読し、漢字の読み方や新出語句を確認する。 ・教材の背景にある大学紛争や作者について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や新出語句の読み方や意味を確認できるように、パワーポイントを使用し、写真やイラストを提示する。 ・生徒が物語の内容や独特の語り口調をイメージしやすいように、朗読CDを使用する。 ・生徒が興味をもって取り組めるよう、大学紛争をテーマにしたアニメ作品を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み方や新出語句の意味について、理解している。知 (発言・ワークシート) ・小説の背景にある学生運動について、理解している。知 (発言・ワークシート)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡についてのイメージを広げる。 ・本文の起承転結を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡についてのイメージを広げ、友達との考えの相違点に気付けるように、ロイロノートのシンキングツールを活用したり、事前に職員からとったアンケート調査の結果を提示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡について、自分なりのイメージをもったり、友達の発言やアンケートの結果からイメージを広げたりしている。思 (ワークシート・発言)
展開	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「転」の場面の文章表現に着目して疑問点を探す。 ・見つけた疑問点の中から、3人で話し合い、個人で考えたいものと全体で考えたいものを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現に着目して、疑問点を相手に分かるように発表できるように、「○ページ○行目～と書いてあるところを疑問に感じました。なぜなら～です。」の語形を提示する。 ・友達の考えを聞き、自分なりの疑問や考えを再考することができるように、考えを比較したり、それを基に話し合ったりする活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容を読み取り、読み取ったことを基に、自分なりの疑問をもち、根拠を明確にして、説明する。思 (ワークシート・発言) ・次時以降に考えたい疑問点について、自分から友達に伝えたり、友達の考えを積極的に聞こうとしたりする。主 (発言)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に3人で決めた疑問点の解決に向けて、本文の記述を根拠に鏡の外の僕について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の記述から根拠を見つけられるように、サブホワイトボードに本文全体を掲示する。 ・作中の自分と自分自身を比べながら考察できるように、本文の記述を元に「もし～さんだったら、夜警という仕事を選びますか?」「もし～さんだったらどんな自分が鏡に映ったら、割りたくになりますか?」と発問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文全体から鏡の外の僕に関する記述を見つけ、それを根拠に、鏡の外の僕について考察する。思 (ワークシート・発言)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点の解決に向けて、鏡の中の自分がどんな人物 	<ul style="list-style-type: none"> ・現実世界と鏡の中の自分の違いや関係性に気付けるように、視覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・現実世界の自分の姿から、鏡の中の自分がどんな人物な

		かを考察する。	的に整理した板書をする。 ・理由をつけて考察できるように、根拠を基に理由を考える時間を十分に確保する。	のか理由を付けて考察する。 ■思〈ワークシート・発言〉
	6	・個人の疑問点について考察し、全体の疑問点との関連を考えたり、考えをまとめたりする。	・個人の疑問点と全体の疑問点を関連付けられるように、前時までの学習をまとめた掲示物に個人の疑問について書き込んだり、「全体の疑問にどう関わりそうですか？」と発問したりする。 ・理由や根拠を付けて、記述することができるように、「なぜなら」「このことから」「つまり」などの接続語の使い方を確認する。	・これまでの考察を基に、疑問点に対する自分の考えを理由や根拠を付けて記述する。 ■思〈ワークシート・発言〉
	7 【本時】 7/8	・全体での疑問点について、それぞれの考えを発表し、質問し合って読みを深める。	・全体の疑問に対する考えを、理由や根拠を付けて説明できるように、話形を示したり、「なぜ、そう考えたのですか？」と発問をしたりする。 ・友達の考えから、再考できるように、友達の考えに質問したり、それに答えたりする活動を設定する。	・友達の考察を聞き、気付いたことを質問したり、友達からの質問に根拠や理由を付けて説明したりする。■思〈発言〉 ・友達の考察を踏まえて再考し、自分なりに疑問への答えを考えている。 ■思〈ワークシート・発言〉
まとめ	8	・これまでの内容を踏まえて第四段を読み、主人公の家になぜ鏡がないのかを考え、話し合う。 ・振り返りシートに考えをまとめて、記入する。	・主人公が家に鏡を置かない理由を考えることができるように、これまでの主人公について板書でまとめる。 ・話し合い活動を活発にできるように、職員に「鏡がなくても生活できるか」アンケートを採り、結果を提示する。	・主人公が家に鏡を置かない理由を自分なりに考え、根拠を付けて説明している。 ■思〈ワークシート・発言〉

4 本時の実際（本時 7/8）

(1) 本時の目標

3人で決めた疑問点について自分の考察を理由や根拠をつけて説明したり、友達の考察を聞いて再考したりする。

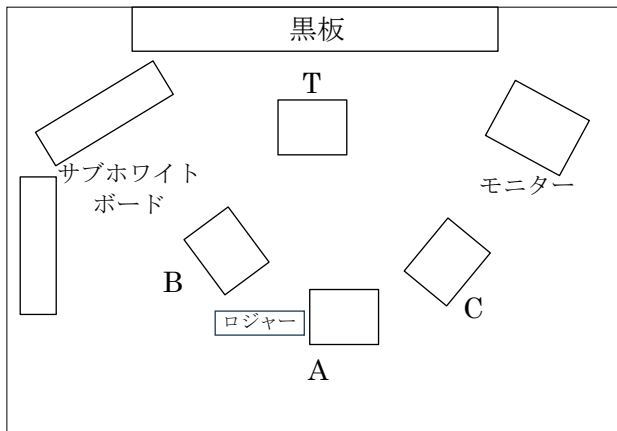
(2) 展開

時間	過程	学習活動	○教師の働き掛け●主な発問 評価規準〈方法〉 ・聴覚障害の状態等に応じた配慮事項
4分	つかむ	◇期待する生徒の姿 ・予想される生徒の姿 1 前時の振り返りをする。 ・前時は、個人の疑問について考えていた。 2 本時の学習課題を知る。	●前時は何について考えていましたか。 ・「鏡」「自分」など本時に関わりのある語句は、その都度手話を用いて確認する。
35分	思考する	3 自分の考察を根拠と理由を付けて、発表する。 ・「なぜなら」や「つまり」を使うといい ◇「～P、～行目の～という記述から～と考えました。なぜなら、～だと思ったからです。」と説明する。 ◇鏡の中の自分は、鏡の外の自分の本心を表している。鏡の中の自分は鏡の中の自分を憎んでいるという記述から、鏡の外の自分が本当は自分自身に満足していないと考えた。 4 友達の考察について、質問をワークシートに書き、お互いに質問しあう。 ◇自分は～と考えたが、その点についてはどう考えますか？と自分の考えと友達の考えを比較し、質問する。 ・自分とは、別の読み方で面白い。	●どんな言葉を発表に使うと分かりやすくなりますか。 ○それぞれの考察について、「～P～行目に書いてある～のところから、鏡の中の自分は～だと考えます。なぜなら～だと思ったからです。」の話形を提示する。 ・それぞれの考察を視覚的にも共有できるように、タブレット端末でワークシートを写真撮影し、モニターに画面共有する。 ・友達の考察を手元で確認できるように、全員が発表し終わったら、考察を書いたプリントを配布する。 ●「自分の考えと、～さんの考えを比べて疑問に思った点や、詳しく聞きたい点はありましたか？」 ・質問の内容を理解できるように、板書する。 ・質問する人や質問に答える人に注目できるように、話す人の顔を見るよう言葉掛けをする。 ○何を質問したらいいのか分かるように、質問の視点を掲示し、必要に応じて「この中から選んで質問してみましょう」と言葉掛けをする。 ●質問タイムを終えて、自分の考えはどうになりましたか？ ○各自で再考できるように、友達と自分の考えを一覧にして、ロイロノートで提示する。
11分	まとめる	5 全体の疑問について自分の考えをまとめる。 ◇～さんの考えを聞いて、「鏡の中の自分は自分の弱さを表している」のような新しい読み方に気づいた。 ・少しだけこの物語について分かった気がする。	●質問タイムを終えて、自分の考えはどうになりましたか？ ○各自で再考できるように、友達と自分の考えを一覧にして、ロイロノートで提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考察を聞き、気付いたことを質問したり、友達からの質問に根拠や理由を付けて説明したりする。■〈発言〉 ・友達の考察を踏まえて再考し、自分なりに疑問への答えを考えている。■〈ワークシート・発言〉 </div>

(4) 教師側の評価

- 本文の記述を根拠にして、理由を説明したり、友達の考えを聞いて再考したりするための学習活動の設定、手立ては有効であったか。

5 教室配置図



6 板書計画

鏡 振り返り

村上春樹

学習課題 全体の疑問点について、友達の考えを聞き、自分の考えを繰り返し直そう。

なぜ、鏡の中の自分は自分だけと自分じゃないのか。

発表のコツ (結論) ↓理由 ↓根拠

「私は、〜だと考えました。なぜなら、〜だからです。根拠として、〜をあげます。」

○質問のコツ

- ・言い換えを促す 「それは、どういふことですか。」
- ・理由を尋ねる 「それは、なぜですか。」
- ・具体化を促す 「詳しく教えてください。」
- ・思いや考えを聞く 「そのことについて、どう思いますか。」
- ・根拠を変える 「もし、自分だったら、どうしますか。」

質問タイムのルール

○質問 (その時の発言を記録していく)

松山 高橋 佐藤

まとめ (友達の考えを聞いての自分の考え)

ワークシート

鏡 学習ワークシート⑦

学習課題

なぜ、鏡の中の自分は自分だけと自分じゃないのか。

○よい質問とは?

- ・言い換えを促す 「それは、どういふことですか。」
- ・理由を尋ねる 「それは、なぜですか。」
- ・具体化を促す 「詳しく教えてください。」
- ・思いや考えを聞く 「そのことについて、どう思いますか。」
- ・根拠を変える 「もし、自分だったら、どうしますか。」

さんへの質問

さんへの質問

メモ

まとめ (友達の考えを聞いての自分の考え)